

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	ありふれた出来事や活動、生活の中からも新たなものの見方や考えなどが学べると思います。入居者や職員がより向上しようとする意欲を強く持ちさまざまな新しい体験を味わってほしいものです
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	入居者の今までの生活や行ってきた事、趣味から、現在少しでもできることを探し、探り出し、レクリエーションの場等に持ちいれたり、個々に意欲を持たせ少しでも自信をつけさせている
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	利用者を個人と尊重しプライバシーをまもり尊厳のある生活や自立した生活をできるように、推進会議や家族、近隣の人達、子供たちにも常に話をしたり、交流を深めるためにも施設の訪問をいつでも歓迎し呼びかけている
2. 地域との支えあい			
4	○ 隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	○	1年に4回の三内児童館訪問交流、夏に近隣の人達、家族、入居者との納涼祭、小学生達と先生、民生委員達の施設訪問、三内遺跡跡での町内の老人会と土器づくり等、町内会費を納め、町内会とも連絡を取りながら行っている。 9月には2日間中学生16名によるボランティア活動予定(先生と話済み)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	○	去年の外部評価において改善への指摘を受けた事に対して(地域住民との交流、介護計画の見直し、家族に日頃の様子を具体的に伝える)を直ちに行い改善しました。
6	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○	地域の人たちの交流に関しても出席して下さっている町内会長や民生委員の協力があってこそなので、とても感謝しております。今後も報告や話し合いを行いながらサービス向上に活かして行きたいと思います。
7	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	○	介護保険事業者における事故発生時の報告取扱い要綱に関しても、あいまいに独自で判断せず、高齢介護保険課指導支援チームに連絡を取り指示を受けたりしている。
8	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	○	利用者の中には通帳を施設で預かっている人もいますが、引出しに関しては本人同行により行い、金額の大きな買い物などは保証人に対し連絡し許可を受けている。又月末締めで出納簿にレシートを添付し毎月送付している
9	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○	施設内を徘徊している入居者に対し混乱を鎮めようと努めると同時に転倒させないように配慮します、椅子や別途などの誘導も「どこに行くのですか」「ここに座っててください」などと無意識のうちに言葉や態度による行動抑制を行ったりしていることがあったりしますので、本人の反発や意欲低下を招くことがあるので注意していきたいと思っております

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○	入所前に利用者、家族に施設内を見学していただき、契約や解約に関して十分な説明を行っている。
11	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	利用者の言動の中から変化などを察知し、職員全体で話し合い、その後個別にさりげなく聞き出す取り組みをしている
12	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	○	入居者一人一人の近況報告(通院状況、生活面、認知症状況、その他)金銭に関しては使用したもののレシートを添付し1ヶ月に1回送付している。
13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	近況報告のその他欄には来所や意見、要望についての呼びかけを行っている。
14	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○	議題(意見や提案)が出た場合は各棟で話し合いその結果を処遇に反映させている。
15	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		利用者の不穏時、他の仕事が忙しいと、ほおっておくのではなく職員同志、連係をとりながら時間をかけて利用者のケアに取り組んでいる、急な家族の面会に関してもゆっくり会話のできる勤務体制を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃より朝夕の2回、A・B棟の両ユニット合同で申し送りを行うので、他ユニットの状況も知ることできる。又申し送りノートを作り確認したら印を押すようにして確実に申し送られているなど、職員は利用者の個々を把握している。	○	A棟からB棟へ歩行練習のため出向いたり、又B棟よりA棟への散歩、又一緒に外での散歩や日向ぼっこ、おやつタイム、レクリエーションの場をともに行ったりしている
5. 人材の育成と支援				
17	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会や青森県社会福祉協議会等からの研修を受けたり、施設内での研修を行っている、又職員は働きながらトレーニングをしている。	○	ヘルパーの受講やレクリエーションインストラクター養成講習会受講等学習を通して知識、技術の取得とともに人間交流の進展を図っている。
18	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回の連携グループホーム困難事例検討会を設け活動に参加し意見交換などサービスの質向上に取り組んでいる。	○	グループホーム協会に加入し研修会、講習会にも参加している、又同業者(連携グループ)困難事例検討会も設け、お互いのサービスの質の向上に取り組んでいる
19	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	シフト作りには職員一人一人の休みの要望を取り入れたり話しやすい雰囲気の中で仕事をしていただいている。	○	休みの希望や急な休み(子どもの学校関係、葬祭、職員の病気)等についても連絡しながら希望にこたえている。
20	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	利用者のケアの方法やいろいろなレクリエーションのやり方コミュニケーションの取り方についてなど、その場の応じて働けるように自由に意見を出せるようにして行っている	○	当施設の独自の理念が「向上の意欲を持てば毎日の小さな事からも体験が生まれる」と常に職員は向上心を持って勤務している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21 ○ 初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学から入居申込、利用に至るまでに、本人、家族等の相談受付、困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴き、受け止め、引き続き入居してからも話し合いの場を作っている。	○	目前の問題点の解決、対応にとどまらず「入居者がどのような人生、生活を生きるのが一番良いのか」と言うように、入居者一人一人について、個別的・個性的な目標を立てて「最も幸せな人生の状態」を作っていきたいと思っています。
22 ○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話や見学時の初期対応時内容について見極め入所に関してばかりではなく、本人・家族の相談内容に応じて行っている。	○	単に入居者の希望を聞くのではなく、表現された希望を通し、その奥にある真のニーズを掴む事であり、家族へは十分説明し話し合いながら対応に努めている。
23 ○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人家族の意見を十分聞きながら安心して生活できるように職員一同サービス内容について話し合いをして工夫している。	○	毎月1回家族との話し合いをもとに利用者の処遇に関する職員会議を行っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24 ○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	とともに生活する上で介護員、利用者と分けてしまうのではなく、その時の利用者の状態にあわせ、友人、兄弟、師弟、親子等さまざまな関係を築いて行きながらかよく関係を保っている。	○	利用者の中に習字師範の資格を持っている人がいるため、利用者や職員とともに習字教室を開いている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族、施設とお互いに協力、連絡しあいながら、助け合っていくことを約束している。	○	家族(息子、嫁、孫等)は、これまでの生活や環境、暮らしの中で入居者に対する思いが、それぞれ違う家族もあります。一人一人と話し合いながら支援し「一つの目標」を立てて、職員、家族とともに全体で支援して行く事を理解していただいている。
26	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常に家族と話し合い、本人と家族との良い関係が築いていけるよう支援している。	○	本人と家族とのこれまでの関係の中で認知症により家族に対して誤解の部分など少しずつ取りほぐし、お互いにねぎらいの言葉をかけられるようにしている。
27	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に入居していながらもこれまでの友人や知り合いの人たちが気軽に来れるよう利用者や家族と連絡を取りながら行っている。	○	施設に入所した利用者に対し友人が訪問しても良いものか、施設に入所している自分を見られるのが嫌じゃないかと悩み家族に話され家族が施設に連絡してくれたので是非来所してほしいと伝え、気軽に訪問していただき、思い出話などゆっくりできる雰囲気を作り、施設で楽しく毎日を過ごしている事を分かってもらい、又来所してくれることを約束してくれた。
28	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のこれまでの生き方や趣味など把握しレクリエーションなどを通して関わり合っていくようにしている。	○	職員が見守りする中で、入居者一人一人が役割を持ち成功や失敗の事例も貴重な体験としてとらえ、さまざまな出来事や活動にも意欲や感心を持たせ行っている。
29	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者の健康状態により一ヶ月以上の入院により退所された利用者や家族に対して、連絡や見舞いなどを行っている。	○	家族(入居者の妻)にあたっては、退所後も入所していた頃(妻の悩み)の相談を受けていたので、今でも電話にて、その後の様子や話を聞いたりしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○	困難な場合は職員会議で話し合いを行い、入居者の気持ちや意向を大切に行っていくことを検討している。
31	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○	職員会議や申し送り等で入居者の事前面談、基本情報を職員に把握していただくために検討しながら計画を立て、チーム全員で支援している。
32	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○	ケース記録や個人記録簿に記入し、又朝夕2回の申し送りにて、入居者一人一人の1日の過ごし方、心身状態、有する力等を伝えている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○	入居者本人の希望、表現された希望を通し、家族等と話し合いながら、介護計画の作成を行っている。
34	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人個別のケース記録があり日々の様子等記入し、朝夕の申し送り後ケアについての話し合いや、一ヶ月に1回会議を行い、介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一ヶ月以上の入院に対しては当施設では退所の形となるため、家族の引き続き入所させたいとの意向もあり、長期入院(リハビリのみ)の場合に職員が病院でリハビリの指導を受け、病院、家族、施設側と相談の結果、リハビリは定期的に施設で行うこととし、早期退院をできるようにしている。	○	本人家族の状況に応じて、入所以前の通院病院に施設で、通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるようにしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の意向(子どもが大好き)に応じて民生委員に協力していただきながら地域の児童館と交流を深めている。	○	推進会議で町内会長、民生委員、老人クラブ会長(元気の会)等へボランティア活動の参加への機会をお願いしている。
38	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホーム入所中であるため他サービスが利用できない。		
39	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護を必要とする人がいない	○	包括支援センターとは推進会議で話し合いの場を設けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に、かかりつけ病院を受診している。	○	入居前からのかかりつけ医や本人が希望する病院への通院を行っている。
41	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	本人、家族と相談しながら認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	○	認知症が進んできた場合は、家族と相談のもと専門医に受診できるよう支援している。
42	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	病院から直接入所される入居者については訪問看護していただいたり担当だった看護師に相談しながらケアを行っている。	○	精神科からの入所者の場合2週間に1回訪問看護をしていただいている
43	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時やその後も状態を医師等に伺ったり家族との相談に努めている	○	骨折で入院した入居者に対して、リハビリのみで入院した場合、病院と相談の上で、施設でリハビリを行えるように職員が病院でリハビリ方法を習い、早期退院し施設で毎日リハビリを行っている。
44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の在り方については早い段階から家族、かかりつけ医と話し合いを行い全員で方針を共有している。	○	現在病気をしている入居者について家族、病院と話し合いをし、状態を見ながら、病気の悪化などの場合は病院で入院を受け付けるなどの話し合いを行っている。
45	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族に利用者の重度化に向けて希望に添えるように話し合いながら出来ること、出来ないことを見極め、かかりつけ医とともにチームとして支援している。	○	老化に伴い食欲低下の体重減少が見られる入居者について家族、かかりつけ医と相談しながら入院となるも、その後も今後の変化に備えて検討し退院後の準備(老健)を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の生活状況等の情報を詳しく文章にしたり、口頭で伝え十分話し合いを行い、連携しながら行っている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者は人生の先輩として、尊敬の気持ちで接し、自尊心を傷つけないように、言葉掛けや対応、記録の取り扱いをしている。		
48	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人一人の力量に合わせた説明を行い本人の意思を尊重しながら支援を行っている。		
49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースに合わせて行事等にも無理に勧めるのではなく状態を観察しながら希望に沿って支援している。	○	ホールで入居者とレクリエーションを行っている際、居室で休まれている入居者に対しても見守り、声掛けを行っている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の希望により洋服の買い物に出かけたり、希望の美容院まで送ったり、又施設に理容師に来ていただいたり自由に行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一週間に一回入居者、職員に「食べたい物アンケート」を実施している。入居者から口頭での希望に対しては、その週や次週に取り入れている。食事、準備、後片付けは入居者と職員と一緒にやっている。	○	その都度、入居者の健康状態に合わせたり好みでないものや、食べれないものがある場合は別メニューにしたりしている。
52	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は必ず本人に聞いて、その時の飲みたい物を出している、喫煙も決められた場所で自由にできる。		
53	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的なトイレ誘導をしている。排泄チェックを行い排便の確認をしている。排泄の誘導も入居者のプライバシーを損ねないように配慮しながら行っている。	○	定期会議や申し送り等で気持ちよく排せつできるように支援して行くことについて話し合いをしている。
54	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日は決めてはいるが、希望があればいつでも入浴は可能である。夏季はシャワー浴を自由に行っている、日中の外での足浴も行っている。		
55	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個室なのでいつでも自由に休息ができ、夜間も安心して眠っていただくよう見回りしている。	○	日中の眠りについては入居者の状況を見ながら昼寝を長く取らせないように(昼夜逆転にならないよう)声掛けや散歩などしながら支援をおこなっている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の興味を見つけ出し、レクリエーションとして取り入れている。又能力を生かし利用者本人の希望に基づいた役割にしている。	○	レクリエーションの中に習字教室を開き、入居者で(五段の有段者)がいるので入居者、職員と共に習っている。なるべく入居者一人一人に役割を持たせ楽しく行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の意志によりお金は所持されている。外への買い物希望があれば職員同行で実施している。	○	施設内の自動販売機や、近くのスーパーや洋服の買い物など行っている。
58	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候により付近の散歩を行っている、希望者には車で目的地まで送迎している。	○	施設の周りの散歩、付近の散歩、駐車場だけの散歩と一人一人その日の希望に沿って行っている。家族と一緒に出かけたり職員と同行で出かけたり行っている。
59	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の外出申し出により家族への連絡を行っている、入居者の申し出により動物博覧会やかやの茶屋などにも遠足として出かけている。	○	これからも、入居者の意見を取り入れ、色々な場所への外出の機会を増やして行きたい。
60	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があればいつでも電話の利用はできる。	○	手紙なども行っている。
61	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎月送付している近況報告にて、来所を呼び掛けている、訪問時には楽しんでいただけるように、プライベートルームにて過ごしていただいている。	○	入居者の友人、幼馴染、近隣の人達が気軽に訪問している。
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し身体拘束ゼロに取り組んでいる。施設研修会を定期的に行って職員全員理解している。	○	今後も身体拘束0を目指していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	- 鍵をかけないケアの実践 - 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、日中玄関に鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。	○	日中、入居者が玄関から出ても、無理に止めるのではなく、職員と一緒に外を散歩したり、帰宅願望の入居者に対しても、話を聞きながら、一緒に歩いて気分転換を行ったりしている。
64	- 利用者の安全確認 - 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に入居者を見守りできる位置にあり、状態を観察しながら安全に配慮している。	○	入浴に関しても一人で入れる方については声掛けをして了解を取ってから戸を開けたり、着替えなども外に出たほうがいいのか確認をとったりしながら行っている。
65	- 注意の必要な物品の保管・管理 - 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の状態に応じて、はさみ、ナイフ等を持たせている。		
66	- 事故防止のための取り組み - 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	近くの消防署にお願いし救命講習会を修了している職員全員が入居者一人一人の状態を把握できるように申し送りや、ケース記録に記入、会議(学習会)を行い事故防止に取り組んでいる。	○	救命講習は(3年に1回)17年に行っている、20年にまた行いたいと考えている。日本防災興業の職員に来てもらい、消防署と連携を取りながら火災訓練も行っている(年2回)。施設だけの避難訓練をしている。
67	- 急変や事故発生時の備え - 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	平成17年に救急救命法の講習を消防署に来てもらい受講している、又緊急時の手当法を掲示し施設内研修で行っている		
68	- 災害対策 - 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署と連携を取りながらの火災訓練と、又施設内でのみの避難訓練をしている、推進会議において地域の代表者と災害時の対策を話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い - 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日常生活を観察し、家族に毎月近況報告を送付している。又口頭での説明や話し合いも状況に応じて行っている。	○	近況報告は入居者の(通院状況、生活面、認知状況、その他)を毎月家族に送付している。その他の欄には、家族からのご意見や、ご要望、行事等の連絡、来所した時の話し合いについてなどの報告も記入し送付している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 - 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	起床後のバイタル測定を行っている、又顔色や食欲を観察し、介護日誌に記入、排泄のチェックも行い、申し送り時に体調の変化などを報告し話し合っている。	○	体調の変化、異変には常に職員が観察を行い、発見したときはすぐに管理者に報告、病院等に連絡や指示を受けるなど対応をしている。
71	○服薬支援 - 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬説明書を個人記録簿に綴り職員全員が確認できるようにしている。又副作用や薬効など記入することに努め、次回受診時に医師に報告している。	○	個人の受診用ノートを作り、病院の医師からの指示、入居者の訴え等、次回受診を記載し職員全員が確認できるようにしている。
72	○便秘の予防と対応 - 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個人に合わせた歩行運動を行っている、バランスの良い食生活をされるように食材を考え調理し、摂取していただけるようにしている。又水分補給の声がけをしている。	○	便秘予防のために食物繊維の多い食品を取り入れている。又歩行運動や散歩、リズム体操など体を動かしている。
73	○口腔内の清潔保持 - 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝夕と歯磨きを行い、毎食後も一人一人の口腔状態や力に応じた支援を行っている。	○	朝夕の歯磨きを全員行っている、毎食後は歯磨きの方、うがいだけの方、入れ歯を外して洗う方、それぞれ全員行っている(1日5回以上)
74	○栄養摂取や水分確保の支援 - 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関と連携を取り、体重維持などに気配りしている。十分な水分摂取をしていただくため、一人一人の好む飲み物を揃えている	○	食事量を観察しながら、体調や不穏等で食事を食べなかったりした時などは時間をおいてから、好みや食べたい物を作り少しでも摂取していただけるようにしている、水分量は毎日ケース記録に記入している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○ 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは毎年予防接種を実施している、その他感染症に対しては、手洗い、うがいなどを徹底して行っている。又定期的に施設内研修においてマニュアルを作成し感染予防について話し合いをし取り組んでいる。又掲示もしている。		
76	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具等は使用前後にハイター、洗剤洗浄、アルコール消毒剤で消毒している、鮮度に気をつけ消費期限内に使用している。大型業務用冷蔵庫に保管、ストッカーにて冷凍保存している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
77	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関正面に花や野菜を植え、ほのぼのとした玄関を作っている。季節により玄関ドアを開放している。	○	夏期は強風や雨の日でない限りほとんど解放し、自由に出入りを行い玄関前の花や野菜など、見たり水などをあげている
78	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけて清掃を行っている、施設内は季節に合わせた装飾をしている。又常に換気に気配りをしている。	○	吹き抜けの天窓や、トイレや浴室等に関しても広いスペースを使いホールには季節感を味わっていただく為に季節ごとの飾りつけを共に工夫したりしている。
79	○ 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間はテーブルを囲みソファを設置し利用者同士が談話できるスペースを作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたたんす等の持ち込み、家族の写真を部屋に飾る、亡くなった妻の位牌を置いている入居者もいます。好みのものを聞き出しながら、職員と一緒に作ったり飾ったり、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	○	入居にあたっては、施設ではベットを設置しているが、布団やカーペットの使用も出来ることを説明している。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日1回以上窓をあけ換気を行っている、常時換気扇を動かし空気がこもらないようにしている。	○	毎日掃除の時間帯には天気状態を見ながら窓を開けている。利用の体調や希望に合わせて1枚多く着せたり、床暖やエアコンを活用しながら温度調整を行い気になるにおいのないように、その都度清掃もこまめに行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂の手すりの設置、段差のない建物(バリアフリー)、車椅子の入居者でも使いやすい洗面所も入居者に合わせて調節できるようにしている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一日のスケジュールの貼付、風呂トイレの案内板の設置。	○	自分の居室を間違えないように表札を掲げたり、名前を大きく書いたり好きな花の名前を貼っている、トイレへの目印等。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物内での歩行訓練を行ったり、廊下を利用したのレクリエーションを行っている。	○	廊下の壁に施設内新聞や写真、入所者たちで作ったはり紙等を貼ったり、いつでも見れるよう楽しんでいる。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐ 大いに増えている ☐ 少しずつ増えている ☐ あまり増えていない ☐ 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	☐ ほぼ全ての職員が 職員の数 $\frac{2}{3}$ くらいが ☐ 職員の $\frac{1}{3}$ くらいが ☐ ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ほぼ全ての利用者が 利用者 $\frac{2}{3}$ くらいが ☐ 利用者の $\frac{1}{3}$ くらいが ☐ ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ほぼ全ての家族等が 家族等 $\frac{2}{3}$ くらいが ☐ 家族等の $\frac{1}{3}$ くらいが ☐ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)